

令和4年度 6月号

ほけんだより

あゆみ保育園
園長 江郷 勝哉
看護師 高瀬 浩子

6月に入ると梅雨の時期になります。湿度と温度が高くなるので、熱中症や食中毒に注意が必要です。又、新型コロナウイルスについては、徐々に様々なことが緩和されていますが、まだ園内でも感染者が出ている状況ですので、気を抜かずに感染対策をしていきましょう。そして、あゆみ保育園では、6月29日（水）にはプール開きがあります。元気にプールに入れるよう、健康管理をしていきましょう！

<6月の身体測定予定>

- 14（火）幼児クラス
- 16（木）乳児クラス

<先月の感染症>

（4月20日～5月20日）

- | | |
|-----------|------|
| 感染性胃腸炎 | 乳児2名 |
| 新型コロナウイルス | 幼児2名 |

～歯科検診があります～

★ 6月7日（火）は歯科検診です ★

<以下の御協力、宜しくお願い致します>

- 1、当日は朝食の後、必ず「歯みがき」をして下さい。
- 2、乳児クラスは、9時より検診が始まりますので、8時45分までに登園して下さい。
- 3、当日はお休みしないようお願いします。お休みした場合、後日、各個人で歯科検診に行ってください。

検診の結果、「治療が必要」と診断された場合は、すみやかに歯科を受診して下さい。

- 歯科検診は、虫歯の有無だけでなく、日頃の虫歯予防の取り組みを見直すよい機会です。ご家庭で、お子様の歯をよく見てあげましょう。

<＝「虫よけアロマスプレー」の使用について＝>

そろそろ蚊が発生する時期になります。蚊に刺されやすいお子様は、ご自宅から「虫よけシール」を付けたり、「虫よけリング」を持ってきていただいてもかまいませんが、使用する前に看護師にご相談下さい。また、今年も「虫よけアロマスプレー」を園で使用します。お子様の体に影響のない自然の物を保育園で手作りします。蚊が嫌うアロマの香りをスプレーするので、蚊が寄って来なくなり刺されにくくなるそうです。なお、お子様に使用して欲しくない場合は、6月8日（水）までに看護師にお申し出ください。6月9日（木）から使用を開始します。

《～これからの時期に起こりやすい「皮膚トラブル」～》

6月29日（水）からプールが始まりますが、皮膚状態が良くないと、プールに入ることが出来なくなります。「とびひ」と診断された場合は、完治するまで入ることが出来ません。また、皮膚に炎症があったり、浸出液が出ていたりしている場合も入ることが出来ません。

お子様が問題なくプールに入るためにも、6月末までには、お肌の状態を整えておくようにしましょう！

●<汗疹(あせも)>プールは入れます。ただし、炎症が起きていたり、浸出液が出ていたりしているような場合は入れません。

あせもとは、汗を沢山かいた後に、皮膚に細かい水ぶくれやブツブツが現れる皮膚トラブルです。汗をかきやすい夏に多く、小児に発症しやすい疾患です。あせも自体は、ほぼ無症状で自然治癒するのですが、これに湿疹が加わると、痒みを伴うあせもになります。スキンケアをきちんと行い、痒みがある場合はステロイド外用剤を用います。掻いて悪化している場合は、抗ヒスタミン剤内服も用います。

●<伝染性膿痂疹(とびひ)>プールには入れません。

黄色ブドウ球菌や化膿性連鎖球菌による皮膚の感染症です。菌が産生する毒素のせいで、皮膚が破れてしまいます。掻きむしった手を介して、みずぶくれがあつという間に全身へと広がる様子が火事の火の粉が飛び火する様に似ているため、「とびひ」と呼ばれます。とびひの治療で重要なのは、きちんと洗うことと、ガーゼで覆うことです。薬物治療は、軽症であれば、抗菌作用のある外用剤が処方されます。びらんが多い場合は抗生剤の内服治療を行います。痒みを伴っていることが多いので、抗ヒスタミン剤内服薬が処方されることもあります。

●<伝染性軟属腫(みずいぼ)>プールには入れます。ただし、炎症が起きていたり、浸出液が出ていたりしているような場合は入れません。

伝染性軟属腫ウイルスによる皮膚感染症です。小さなドーム状の丘疹で透明感があります。敏感肌やアトピー性皮膚炎のお子様は、皮膚のバリア機能が低下しているので広がりやすいです。多くは、抗体が出来上がると1年半くらいで自然に消失します。ただし、アトピー性皮膚炎などの場合広がってしまうので、広がる前に取ってしまうという考え方もあります。治療方法は、医師の考え方にもよるので、医師との相談になります。